1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800030		
法人名	有限会社 竹松		
事業所名	グループホーム 楽園		
所在地	〒811-0323 福岡県福岡市東区志賀島1735番地の153 TEL 092-603-1233		
自己評価作成日	平成28年08月25日	評価結果確定日	平成28年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成28年09月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リビングから見渡す博多湾は豪華客船等が行き交う中、福岡タワーやヤフオクドーム等の景色が眺望出来、振り返ると志賀島の山々が広がり自然豊かな環境に囲まれた楽園です。地域との関わりも深く、町内での伝統的な行事への参加、近隣保育園・小学校との交流等々職員も一緒になり楽しんでいます。施設の敷地内には畑もあり、季節の無農薬野菜を収穫し入居者の皆様には季節を感じて頂きながら安心して美味しく召し上がって頂き好評です。ボランティアの方々の協力も多く、傾聴ボランティアやヘアカット・ビューティークア・踊りや音楽演奏会等々入居者の皆様生まれ、毎月発行している『楽園だより』では個々の写真と一緒に入居者さまの普段の様子をお伝えしご家族様にも好評いただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海と山に囲まれた志賀島の風光明媚な広い敷地の中に、デイサービス、有料老人ホーム併設の1ユニット(定員9名)のグループホーム「楽園」がある。協力医療機関による毎週往診の体制が整い、ホームで最後まで暮らしたいという利用者の思いを、職員全員で受け止め、利用者本位の看取り介護に取り組んでいる。職員の優しい気配りや笑顔が、利用者の心を開き、元気で明るい笑顔を取り戻した様子を見守る家族からは、「楽園を選んで良かった」と、ホームとの強い信頼関係が築かれている。職員手作りの美味しい料理を、利用者職員が談笑しながら一緒に食べる様子は楽しそうで、健康増進に繋げている。また、歴史と文化を誇る志賀島で、充実した福祉事業を実施し、地域福祉の拠点としての役割や、存在感を高めているグループホーム「楽園」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティング時全員で理念の唱和を行い再確認し、日々のケアの中でも職員同士注意し合うようにしている。	「介護はこころ」を理念に掲げ、理念に基づく3つの基本方針を提示し、毎月のミーティング時に唱和をして共有に努めている。職員は、心と心の通じ合いを大切に、利用者がその人らしく毎日を穏やかに楽しく過ごせるよう、利用者中心の介護に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事等に入居者の方々と一緒に参加させて頂き、地域の方々との交流を深めている。	町内会に加入し、祭りや花見、演芸会等の地域行事や小学校の運動会、保育所の催しに参加したり、利用者として制作した作品を文化祭に出展する等、地域の一員として交流を深めている。また、傾聴ボランティアやビューティークア、カットのボランティア、楽器演奏のボランティア等、多くのボランティアが出入りする開かれたホームである。	開設10年を迎え、少しずつ地域の中で信頼関係を積み重ねてきた事から、地域や行政と協力しながら、認知症介護の経験や知識を活かした地域貢献に向けた取り組みを期待したい。(認知症カフェ・徘徊模擬訓練・介護相談等)
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で入居者の方々の状況報告をし、認知症についての理解や支援方法を知って頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で入居者の方々の様子や楽園全体の状況等報告している。 又、地域の方々より助言を頂き、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に年6回開催し、ホームの応援団として、たくさん地域の方が参加している有意義な会議である。ホームの運営や取り組み、ヒヤリハット、アクシデント、事故報告を行い、参加員から、地域の問題や高齢者介護について、質問や意見、要望、情報提供等を受け、これらの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のお知らせや報告、情報の提供等、状況に応じて市役所の担当者の方々と連絡を取っている。	ホームの利用状況や事故等の報告、疑問点、困難事例について行政担当窓口と相談し、連携を図っている。また、行政主催の研修会や行事に参加し、行政職員や他事業所職員と歓談する機会を設け、情報交換する事で協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修で得た情報を内部研修で職員全体に伝え、身体拘束の種類や内容等を理解し、日々のケアを行っている。 テーブルに着く時でも車椅子から椅子に移乗してもらう等心がけている。	身体拘束に関する外部研修に参加した職員が、内部研修の中で伝達し、共通理解に努めている。事例を挙げて検証を行う等、禁止の対象となる具体的な行為を職員全員が正しく理解し、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、研修報告書や内部研修で報告し、知識を深め共有している。 又、ケアの内容の再確認も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、参加した職員が内部研修で職員全体に伝え、知識の共有に努めている。	以前に成年後見制度を活用された方がおられた事から、制度の重要性を理解している。制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時には、制度の内容や申請手続きについて説明し、利用者の権利や財産が不利益を被らないように支援に努めている。また、外部研修を受講した職員が内部研修で報告し、制度に関する理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすく入念な説明を行い、疑問があればお答えし納得された上で署名、捺印を頂いている。 改定等がある時はその都度説明し署名、捺印を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方々に関しては、毎日のケアの中でニーズが見えてくる。 ご家族に関しては、来園時やお便り等でご意見を頂いている。 玄関に意見箱を設置し、忌憚のない意見を頂くようにしている。	利用者とはゆっくり過ごす時間を持つ事を心掛け、その中で、意見や要望を把握している。家族については、面会や行事参加の時に、コミュニケーションを図り、意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営に反映している。面会の少ない家族とも電話で利用者の近況を報告している。「楽園だより」を毎月送付し、写真をたくさん載せて利用者の暮らしぶりを伝え、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを密にし、個人面談、ミーティング、相談時に意見を聞き、全職員で検討している。	毎月1回16時から2時間、基本的には全職員参加の下、職員会議を開催している。話しやすい雰囲気の中で、職員の意見や要望、アイデア等が活発に出され、出来る事から迅速に対応し、職員の意欲に繋げている。また、個人面談等で、相談事を聴く機会を密に設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事に対する姿勢や取り組み、自己研鑽への努力、研修への意欲等を評価し、給与・賞与に反映している。 職員同士が仲良く仕事が出来るよう総てに自主性を持ってもらうようにしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用は特別な理由がない限りは障害者の方も採用している。 定年はなく、自分の納得のいくまで働いて頂いている。	職員の募集は年齢や性別、資格等の制限はなく、働く意欲や人柄を優先している。定年制を無くし、体が動く限り働く事が出来る体制である。採用後は、知識や介護技術の向上に取り組み、職員個々の得意分野を活かし、生き活きと働けるよう支援している。また、職員それぞれの事情を汲んだ勤務体制に配慮し、チームワークを発揮して働きやすい環境を作り、職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は人権研修会等に参加してもらい、入居者に対し、常に人格を尊重し尊厳を守ることを職員同士が注意し合うようにしている。	外部の人権研修会に交代で参加し、職員は、利用者の尊厳を守る介護サービスを常に意識して実践している。優しい言葉遣いや笑顔で利用者寄り添い、ホームの中で利用者一人ひとりが、その人らしく穏やかに過ごせるよう、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々職員一人ひとりをしっかり見て声掛けやアドバイスをし、その人に合った研修等の機会を与えている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加し、研修・勉強会・施設見学に参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人ひとりが安心して生活ができるように傾聴しながら支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	月1回ご家族には手紙を送っており何かあれば電話連絡をし、気軽に話せるように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族及び、地域等の人間関係の状況を見て地域ボランティアを含め、なじみの関係ができるように支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分のペースで生活ができる環境づくり、自立支援の方向性を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など気軽に来訪できる関係性を大切にし利用者、家族、職員三位一体で関係づくりを築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも気軽に来訪できる雰囲気づくりや外出、外泊支援に努めている。	温かな家庭的な雰囲気作りを心掛け、訪ねやすく面会者は多い。面会時には、ゆっくり寛げるよう心掛けて、また来て頂けるよう声を掛けている。利用者の馴染みの場所にドライブで立ち寄り、家族の協力を得て、墓参り等の外出や外泊支援を行い、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないようにテーブルの位置を考慮し、一人ひとりが孤立しないよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が退去されてもこまめに連絡を取ったり、ご家族の方がいつでも気軽に来園して頂けるような雰囲気作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に合った暮らし方が出来るよう支援している。 困難な場合はミーティングでご本人の思いや意向について話し合い、ケアを行っている。	日常の会話の中で、利用者のちょっとした言葉を聴き取り、職員間で共有している。入居年数の長い利用者が多く、長く働いている職員も多い事から、何も言わなくてもわかる関係を築いている。利用者の重度化が進み、意思の疎通が困難になっても、職員が寄り添い、その表情や仕草から、利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に入居前の生活の事をお聞きしたり主治医やケアマネージャーに情報を提供してもらい、一人ひとりのこれまでの暮らしの把握が出来るよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりバイタルチェックを行い変化等あれば再計測し、記録に残している。 一日メモや経過記録を活用し申し送りを行い、職員全員が把握できるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様に意向や要望等を聞き、ミーティングで内容を話し合い、介護計画書を作成している。	各担当職員を中心に、利用者、家族の意見や要望を聴き取り、担当者会議の中で検討し、利用者中心の介護計画を作成している。状態変化があった場合は、家族、主治医と相談し、その都度介護計画を作成し、現状に即した介護計画となるように取り組んでいる。また、介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、3ヶ月毎に見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間帯の様子を経過記録に記入し、必要時は職員連絡帳を活用し職員間で情報を共有している。 又、記録を元に介護計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方々によるオカリナ演奏や日本舞踊等希望があればすぐにお受けし、定期的に行って頂けるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりも多く、保育所、幼稚園、小学校の行事や公民館活動に参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	記録等を提供し、医師との連携を図っている。 医療連携の記録を活用しかかりつけ医や調剤薬局等と円滑に連携を図り支援している。	入居開始時に、利用者、家族の希望を聞いて主治医を選択してもらい、かかりつけ医の受診は家族対応でお願いしている。協力医療機関の医師による月2回の往診体制が確立し、(利用者を4名から5名ずつ診られるので先生は毎週来られている)24時間安心して適切な医療が受けられる体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護とケアがスムーズに行くよう看護職員と情報の共有をし、入居者のメンタル面等にも配慮をしている。 夜間などでも対応できるよう連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関、家族と情報を共有しスムーズに退院できるよう支援している。 入院時は職員が訪問し、顔なじみの関係を保っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとしてターミナルケアを実施してる事を入居契約時に説明し了解を頂いているが重度のケアが必要な時は再度家族との話し合いを行っている。 医療連携医とは24時間体制で連絡が取れるよう連携を図っている。	契約時に、重度化や終末期に向けた方針を説明している。主治医との連携、職員間のチームワーク、家族の協力により、重度化しても、安心して最期までホームで暮らす事が出来る体制を整え、これまでに3名の利用者の看取りを経験している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行い職員全員で応急手当や初期対応の訓練等を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火避難訓練は年2回行っている。 地域での訓練にも参加し、火災については当施設から火事を出さないように伝達を行っている。	消防署の参加、協力を得て、年2回避難訓練を実施している。2階の一時避難場所を、火元や状況によって対応出来るよう4ヶ所と定め、地震や津波等の災害時も、小学校に逃げるよりもホームにいた方が安心と指導を受け、確認を行っている。地域の訓練にも参加し、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき対応7ヶ条を頭に入れ、人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	職員は、理念と基本方針、対応7ヶ条を常に意識し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人らしく暮らす事が出来るよう、利用者中心の介護サービスに取り組んでいる。特に、排泄や入浴時の介助については、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の健康面や精神面で配慮を行いながら日常生活のすべての活動に参加して頂けるように促すが、ご本人の思いや希望を大事にして自己決定して頂いている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	したい事などの希望がある場合はご本人及び他のご利用者の安全面も考慮し、出来るだけ希望に添うように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧など若い頃よりされている方には声掛けして促している。 ボランティアの方に来て頂き、化粧や顔のマッサージをしてもらっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食に行ったり、手作り弁当を楽しまれたり、状態低下してある中でもツワの皮むき、グリーンピースの豆取りなど皆さん出来られる事をして頂いている。	利用者の重度化により、一緒に調理するのは難しくなっているが、職員と一緒に下拵えをする等、出来る事を手伝ってもらっている。畑で採れた新鮮な野菜を使って職員が交代で作る美味しい食事を、職員も同じテーブルについて一緒に食べる、家庭的で楽しい食事の時間である。弁当を作って外で食べたり、母の日にパエリアを作ったり、食べる事を楽しくするよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を3食完食されているにもかかわらず、体重減少のご利用者はDrと相談し補助食品を活用している。 尿量が少ない方や濃色尿の方は水分表を活用し、飲み物も種類を変えて対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きと週1回の歯科往診での口腔ケア時、Drより情報を頂きケアに役立てている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を心掛け、個々に合わせ声掛けをしている。	トイレでの排泄やおムツを使用しないで済む暮らしは、利用者の生きる力に繋がるとの思いから、職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンに沿った声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、腹部マッサージの実施や水分摂取にも気を配り、利用者の排便がスムーズに行われるように支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	Drと相談し、その方に合った薬や坐薬の使用を試み、訴えないご利用者が快適な排便が出来るよう水分摂取も十分心がけている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前午後を問わず便汚染時、個々人にすぐ対応出来るようにし、希望者には毎日もしくは1日おきの入浴を行い、皮膚の保清に努め、入浴時は全身観察を行っている。	一日おきの入浴を基本としているが、利用者の希望により、毎日入る事も可能である。家庭的な浴槽に一人ずつゆっくりと入浴を楽しめるよう配慮し、清潔保持だけではなく、全身(皮膚等)の観察や、職員と1対1でコミュニケーションが取れる貴重な機会と考え、個々に沿った入浴の支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室の温度調節や寝具調節などを行い、気持ちよく眠れるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従って決められた通り服用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな物や興味のある物を聞き、歌を唄ったり会話をして楽しく生活が出来るよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩けるご利用者も車椅子使用のご利用者も職員と一緒に散歩に出掛けたり、花見ドライブや山笠見学など、四季を感じて頂けるよう支援を行っている。	志賀島の歴史や自然を満喫できる環境の中で、車椅子の利用者も一緒に、散歩や花見、祭りや山笠見物、手作りのお弁当を持って出かける海ノ中道海浜公園フラワーピクニック等、積極的に外に出かけ、季節を感じて貰えるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や外食の際、一人ひとりに応じた支払いをして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望がある場合には職員が間に入り、お話が出来るよう支援している。 手紙はご本人の写真や直筆の署名、挿し絵の塗り絵などと共に職員からのコメントを入れて毎月郵送している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には数か所の天窗があり、光の入る明るい環境である。 又、通路には入居者の作品を飾っており、時折立ち止まって見て楽しまれている。 季節を感じる生け花や壁紙も飾っている。	利用者が一日の大半を過ごすのは、目の前に博多湾が広がり、島々や行き交う豪華客船を眺める事ができる開放的なリビングである。生花や季節毎の作品、笑顔の写真を飾り、季節感を大切に温かな環境である。水槽のメダカ、ソファーに並べられたたくさんの人形、玄関前の火鉢に浮かぶ水草等、代表や職員の気持ちは隅々まで行き届いた居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の変化に応じて席替えを行ったりソファを追加するなど、居心地よく過ごして頂けるよう工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人やご家族の希望の物を持って来て頂き、写真や作品を飾ったりするなど、心地よく安心して過ごして頂けるように努めている。	利用者の馴染みの物、大切な物を、家族の協力で持ち込んでもらっている。壁には、写真や誕生日に贈られたお祝いの色紙、利用者の作品等が飾られ、利用者が安心して穏やかに過ごす事が出来るよう、その人らしい居室作りに取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの個性に合わせ、無理のないようにお手伝いをして頂いている。 見守りの中で自分で出来る事はして頂き、機能低下を防ぐよう努めている。		